

②海外大学進学に向けた英語力・成績対策の進め方

はじめに

海外の大学に進学するためには、志望校への出願書類を揃えるだけでなく、必要な英語力や一定の学力（成績）を備えていることが求められます。本記事では、英語力の証明に用いられる主な試験や、学校の成績に関するポイントについてお伝えします。

英語力

海外の大学では、英語を母語としない学生に対して、英語力の証明を求めるのが一般的です。留学を視野に入れ始めたときから、英語学習を効果的に進めていきましょう。

1.留学で主に使われる試験の種類

• IELTS -

ブリティッシュ・カウンシルや日本英語検定協会などが運営している試験。4技能すべて測定することができ、各技能9.0満点。受験会場に赴き、コンピューターを使って受験するCBTタイプと、紙の問題用紙を用いて受験できるPBTタイプが選べる。

• TOEFL iBT-

ETSが運営している英語試験。4技能すべて測定することができる。2026年1月から、各技能30点×4技能（120点満点）と、各技能6.0満点のスコア表記が併記されている。受験会場に赴き、コンピューターを使用して受験する。

• Duolingo English Test (DET)-

語学学習アプリとして知られる、Duolingoが開発した英語試験。自宅のPCを使って受験することができる。

それぞれの試験によって、受験費用や受験方法、問題の形式などが大きく異なります。ウェブサイトのサンプル問題や参考書などを確認し、よく比較・検討しながら、進学先に合った試験を受験しましょう。

2. 英語 4 技能の伸ばし方

・リーディング-

読解問題に積極的に取り組みましょう。問題を解いた後は、解説を確認し、正解を選んだ根拠をはっきりさせ、解説と照らし合わせるように読むのが大切です。

・リスニング-

問題演習のあとは、必ずリスニング原稿をチェックしましょう。「何が」「どう」聞き取れなかったのか明確にすることで、弱点の補強になります。日頃から、リスニング教材を聞き流したりするのもおすすめです。

・ライティング-

週に1回は英作文を書く時間を設けましょう。また、作文を書いたあと、自分自身で再度読み返すと、文法やスペルミスに気付くこともあります。新しいテーマを使って練習を重ねると同時に、過去の英作文を定期的に振り返り、起こりやすいミスを理解するのも重要です。

・スピーキング-

国際交流のイベントがあれば参加するなど、積極的に英語を話す機会を探してみましょう。オンライン英会話を活用するのも有効です。

成績（GPA）

海外大学を受験する際において、高校の成績と学内外の活動（課外活動を含む。）は非常に重要視されます。

海外大学は志望理由書、高校の成績（GPA）、過去に行った活動、大学によっては面接を行い、それらの結果を総合的に判断し、合否が出されます。日々の学校での学習や学校行事などには精力的に取り組み、充実した高校生活を送ることが重要です。

同時に、将来的に学びたい分野に対して常に関心のアンテナを張っておくことを意識しましょう。

まとめ

海外の大学に進学するには、「英語力の証明」と「高校での成績」が大きな柱となります。どちらも一朝一夕に好成績を修めることができるものではないからこそ、早めに情報を集め、計画的に取り組むことが重要です。英語のスコアに自信がなくても、努力次第で道は開けます。まずは、自分の目指す進学先にどんな条件が求められているのかを調べることから始めてみましょう。